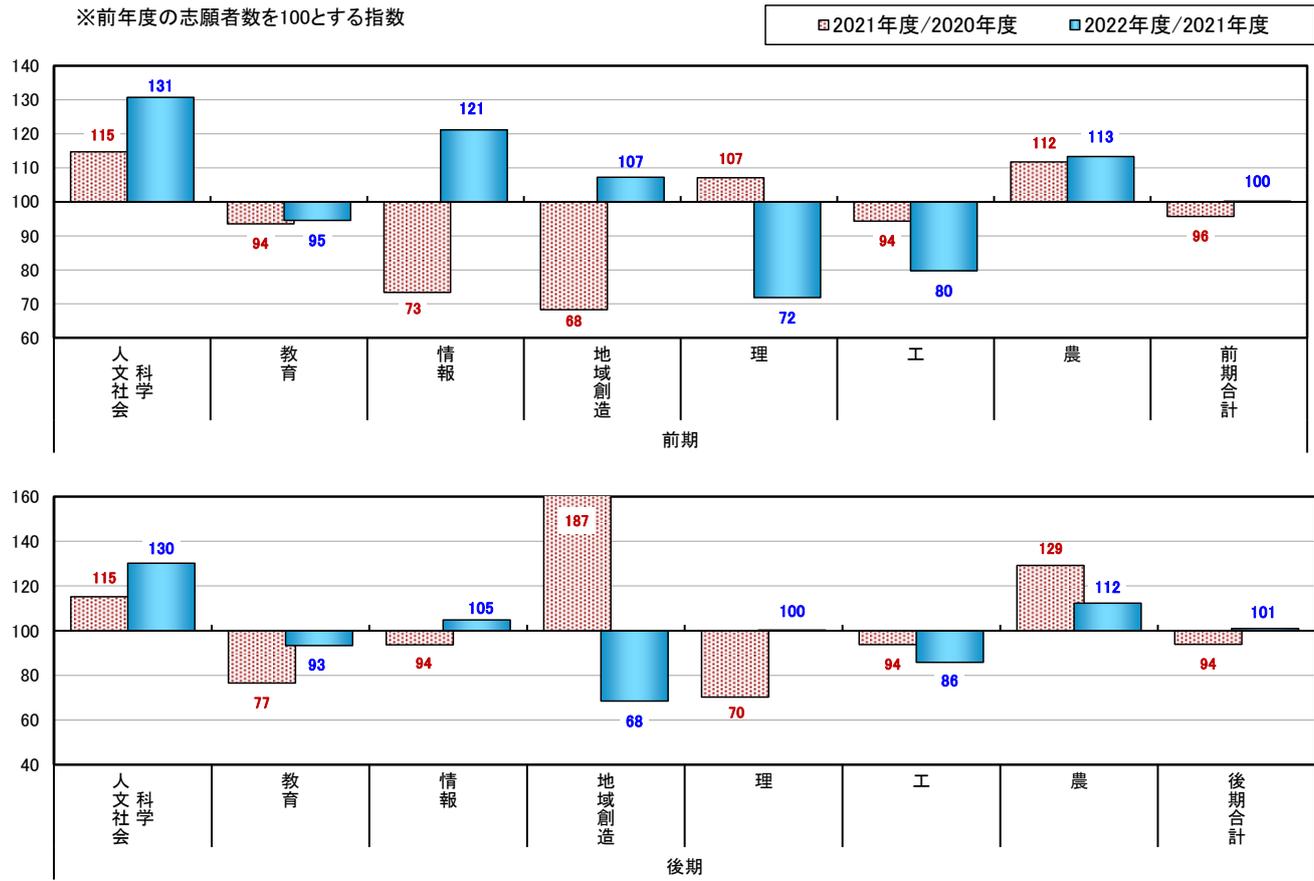


静岡大：前期・後期ともに微増、人文社会科学と農への人気上昇 前期：+6人 後期：+33人



主な入試変更点 共通テスト：工<前><後>…国+歴公+数2+理2+外 ※理：物 or 化 or 生 or 地学  
→国+歴公+数2+理2+外 ※理：物+化

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は6人(100)の微増。学部・学環別では、人文社会科学(131)、農(113)は2年連続増加。一方で、工(80)、教育(95)は2年連続減少。後期は33人(101)の微増で、学部・学環別では、前期と同様に人文社会科学(130)、農(112)は2年連続増加、工(86)、教育(93)は2年連続減少。

<前期日程>

- 人文社会科学(131)は、2年連続大幅増加で志願者数は3年ぶりに700人を上回った。学科別では、(法)(342)は前年度大幅減少の反動で3.5倍近い激増。募集人員が50人台になった2014年度以降で最多の362人、志願倍率も最も高い6.6倍。一方で、(経済)(66)は前年度激増の反動で大幅減少。
- 教育(95)は、系統への低い人気からやや減少で2年連続減少。志願者数は400人を下回った。16募集単位中10募集単位が減少。(学校教育教員養成/教科教育学-国語教育)(96)を除きいずれも大幅減少。一方で、(学校教育教員養成/教科教育学-理科教育)(263)、(学校教育教員養成/教科教育学-保健体育教育)(250)、(学校教育教員養成/教科教育学-数学教育)(183)、(学校教育教員養成/教科教育学-社会科教育)(162)はいずれも前年度大幅減少の反動で激増。
- 情報(121)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。前年度は3学科全てが減少だったが、一転して全て増加。(情報社会)(149)、(行動情報)(119)は大幅増加、(情報科学)(111)は増加。なお、(行動情報)の選抜区分別では、理系型の<選抜区分A>(142)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加、文系型の<選抜区分B>(90)は前年度大幅減少に引き続き減少。
- 地域創造学環(107)は、前年度減少率30%以上の大幅減少の反動は小さくやや増加。コース別では、前年度は3コースとも大幅減少だったが、(アート系)(183)、(文理融合系)(164)は反動で大幅増加。一方で、(スポーツ系)(63)は大幅減少で3年連続減少。
- 理(72)は、共通テストの平均点ダウンの影響もあって、大幅減少。志願倍率は2倍を下回った。学科別では、6学科中5学科が減少。特に、(地球科学)(54)、(生物科学)(56)、(創造理学)(57)、(数学)(77)は大幅減少。その中の生物科学(56)は3年連続大幅減少で志願倍率は3.2倍→2.2倍→1.2倍とダウン。一方で、唯一増加した(物理)(105)も前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。
- 工(80)は、共通テストの平均点ダウンの影響もあって、大幅減少で2年連続減少。学科別では、5学科中4学科が減少。(電気電子工)(49)は半減以下、(機械工)(86)、(数理システム工)(90)、(電子物質科学)(91)は減少。一方で、(化学バイオ工)(116)は前年度大幅減少の反動で大幅増加
- 農(113)は、系統への人気上昇もあり2年連続増加。学科別でも(生物資源科学)(119)は大幅増加、(応用生命科学)(108)も増加。

〈後期日程〉

- 人文社会科学(130)は、2年連続大幅増加。学科別では、(法)(249)は系統への高い人気と前年度大幅減少の反動で激増。志願者数は350人、志願倍率は20倍を上回り、募集人員が18人になった2016年度以降では最多。(社会)(193)は2年連続減少の反動で激増、(言語文化)(126)は大幅増加で2年連続増加。一方で、(経済)(55)は前年度激増の反動で大幅減少。
- 教育(93)は、系統への低い人気から前年度大幅減少の反動はなくやや減少で2年連続減少。後期募集を実施する10募集単位中6募集単位が減少。(学校教育教員養成/養護教育)(39)は激減、(学校教育教員養成/教科教育学-美術)(56)、(学校教育教員養成/初等学習開発学)(63)、(学校教育教員養成/教科教育学-家庭科)(73)、(学校教育教員養成/発達教育学-教育実践学)(85)は大幅減少。一方で、(学校教育教員養成/教科教育学-理科教育)(151)、(学校教育教員養成/教科教育学-国語教育)(136)、(学校教育教員養成/教科教育学-数学教育)(118)は大幅増加。
- 情報(105)は、2年連続減少の反動は小さくやや増加。学科別では、2年連続減少の(情報科学)(155)は大幅増加、(行動情報)(74)、(情報社会)(83)はいずれも大幅減少。
- 地域創造学環(68)は、大幅減少で、2018年度以降前年度の反動による増減が継続。
- 理(100)は、共通テストの平均点ダウンの影響もあって、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。学科・コース別では、(創造理学コース)(167)は前年度減少率80%近い激減の反動で激増、(物理)(114)、(地球科学)(111)は増加。一方で、(生物学)(80)、(数学)(84)、(化学)(85)はいずれも大幅減少。
- 工(86)は、共通テストの平均点ダウンの影響もあって、減少で2年連続減少。学科別では、(数理システム工)(116)は大幅増加で2年連続増加、(機械工)(112)は3年連続減少の反動で増加。一方で、(電子物質科学)(55)、(化学バイオ工)(80)は大幅減少、(電気電子工)(90)は減少。
- 農(112)は、前年度大幅増加の反動はなく2年連続増加。学科別では(生物資源科学)(126)が2年連続大幅増加。